
第 150 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2007 年 9 月 12 日(水) 18 時 00 分~19 時 00 分

時間が変更になりました。

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 藤井 航 氏 (藤田保健衛生大学医学部歯科口腔外科・助教)

タイトル: 咀嚼嚥下における加齢の影響

嚥下動態の基本的概念として 4 期連続モデル(four stage model)が使用されてきた。このモデルは口に含んだものを指示とともに一口で嚥下する運動を時間的連続過程として定義したものであり、現在でも広く用いられている。しかし、実際の臨床場面では「噛んで食べる」ことが大半であり、このモデルでの説明が困難であるケースがしばしばみられる。1997 年に Palmer らにより示された Process model は、咀嚼を要する固形物の嚥下、いわゆる咀嚼嚥下の動態では、咀嚼により粉碎された食物が舌による能動的輸送により中咽頭に送り込まれ(Stage II transport)、そこで食塊としてまとめられることが特徴である。この報告がなされてから、摂食・嚥下動態の研究において咀嚼の存在が大きくクローズアップされ、このモデルを基盤とし若年者を対象とした研究が行われてきた。しかし、人の摂食・嚥下機能は、その他の様々な生理的機能と同様に加齢により低下すると考えられ、その変化については十分に解明されているとは言い難く、高齢者の嚥下動態の解釈を困難にしている。加齢に伴う摂食・嚥下機能の生理的な変化を把握することは、高齢者における摂食・嚥下障害の病態を理解し、治療指針を確立するうえで非常に有意義である。本セミナーでは、経口摂取が安定している高齢者を対象に咀嚼嚥下について若年者と比較し、その相違点について解説する予定である。

担当:健康増進口腔科学講座 小笠原正